

# 目 次

## 和歌山大学入試日程

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）	1
I 入学定員および募集人員	5
II 出願資格	6
III 入学試験の実施方法	7
IV 出願要件	7
V 他の国公立大学・学部および本学学部間の併願	7
VI 個別の入学資格審査の申請方法等	8
VII 出願手続	9
1. 出願に必要な書類等	9
2. 出願期間	11
3. 提出先	11
4. 出願に関する全般的な注意事項	11
5. 『教育学部』を志望する場合の出願に関する注意事項	11
6. 受験票の送付について	11
VIII 入試方法等（前期日程・後期日程）	12
[1] 教育学部	12
1. 入試方法等	12
2. 入学試験実施教科・科目等	13
3. 実技検査要項	14
[2] 経済学部	15
1. 入試方法等	15
2. 入学試験実施教科・科目等	16
[3] システム工学部	17
1. 入試方法等	17
2. 入学試験実施教科・科目等	18
3. 総合問題の出題内容	19
[4] 観光学部	20
1. 入試方法等	20
2. 入学試験実施教科・科目等	21
[5] 平成28年度大学入学者選抜（大学入試センター試験）における 旧教育課程履修者に対する経過措置	22
[6] 個別学力検査等の試験場および試験日時等	23
1. 試験場	23
2. 前期日程	23
3. 後期日程	23
4. 試験場案内	23
IX 障害を有する入学志願者の事前相談について	24
1. 相談期日	24
2. 相談手続	24
3. 問い合わせ先	24
X 合格の発表等について	25
1. 合格の発表	25
2. 欠員補充の方法（追加合格）	25
3. 欠員補充の第2次募集	25
XI 入学手続	26
1. 入学手続期間・場所	26
2. 入学手続に必要なもの	26
3. 入学にあたっての留意事項	26
XII 入試情報の開示	27
XIII 個人情報の取り扱いについて	28

XIV 宿泊の案内 .....	28
XV 入学案内 .....	29
[1] 学部の紹介 .....	29
◎ 教育学部 .....	29
◎ 経済学部 .....	30
◎ システム工学部 .....	31
◎ 観光学部 .....	33
[2] 学生生活 .....	34
(1) 入学時の諸経費 .....	34
(2) 入学料免除の制度 .....	34
(3) 入学料徴収猶予の制度 .....	34
(4) 授業料免除の制度 .....	34
(5) 奨学金制度 .....	34
(6) 学生傷害保険等 .....	35
(7) 学生寮 .....	35
(8) 下宿・アパート .....	35
(9) 学生生活に関する問い合わせ先 .....	35
[3] 過去3年間の入学者選抜状況 .....	36

受験上の注意

出願書類等	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期日程用</span>
入学願書等の記入方法	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期日程</span>
出願書類等	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">後期日程用</span>
入学願書等の記入方法	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">後期日程</span>

# アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

## 1. 大学の教育目的

和歌山大学は、未来を自らの力で切り拓く社会人として、豊かな人間性ととともに公共性を有し、環境にやさしい高度な専門的知識・技術を修得し、地域にあっても国際化を推進できる資質を持ち、そして、社会のニーズに的確に対応できる人材の育成を目的としています。

## 2. 大学のアドミッション・ポリシー

- (1) 学問への探究心にあふれ、課題解決のため意欲的に取り組むことのできる人
- (2) 明確な目的意識をもつ人
- (3) 新しいことに積極的に挑戦する意欲をもつ人

## 教育学部

### 1. 学部の教育目的

本学部は、人間と教育に関する深い理解と、科学・芸術・文化に関する専門的知識にもとづき、教育実践力を高めることで、次代を担う子どもたちの成長と発達を支援していくことのできる高度な資質・能力をもった教員の養成を目的とします。

この目的の実現をはかるために、初等教育コース・中等教育コース・特別支援教育コースの3つのコースをおきます。こうすることでキャリアパスを明確にし、自分のめざすべき進路に応じた専門教育を受けることができるようにしています。

**初等教育コース**では、児童の発達や教科のつながりなどを総合的に捉え、小中連携の視野を持った小学校教員の養成をめざします。子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、教育に関するさまざまな科学・研究分野を学びます。さらに、学校教育の基本的課題のみならず今日の学校内外で多発する複雑で深刻な教育問題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

**中等教育コース**では、教科（分野）の専門性を深めつつ、中学校・高等学校教員の養成をめざします。子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、学校における各教科に関する幅広く深い知識と専門的技量を修得します。さらに、文化の継承・発展という教育の基本的課題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

**特別支援教育コース**では、学習に困難のある子どもや、発達が気になる子ども、障害のある子どもなど、特別なニーズを有する子どもの教育について、専門的知識や理論を身につけながら実践的な指導能力を養い、両者のバランスに優れた教員の養成を目的とします。最新の理論の修得に加えて、在学中から実際に子どもと接する機会を多く持ち、体験を通して学ぶことを重視します。

### 2. アドミッション・ポリシー

上記のような教育目的を達成するために、次のような意欲と資質をもった人を求めています。

#### 全体に共通するものとして

- (1) 教員になりたいという熱意を持ち、子どもと共に学んでいく姿勢を持てる人
- (2) 子どもの様々な特性を理解し、周囲の人々と協力して支援していくことができる人

#### 初等教育コース

- (1) 児童の発達や教科のつながりを広く学んで、小学校の教員をめざす人

- (2) 幼児教育と連携しつつ、小学校教育を考えたい人
- (3) 小学校教育と中学校教育の連携・接続を意識しつつ、小学校教育を考えたい人

#### 中等教育コース

- (1) 教科の専門性を深め、中学校・高等学校の教員をめざす人
- (2) 中等教育段階の生徒の発達と学習を意識しつつ、中学校・高等学校教育を考えたい人

#### 特別支援教育コース

- (1) 特別支援学校教員をめざす人
- (2) 幼稚園・小学校・中学校・高等学校において教育上特別なニーズを有する幼児・児童・生徒に対しても適切な支援を行える教員をめざす人
- (3) 教育学，心理学，臨床学，医学，福祉学など，関連諸科学を横断し幅広い知識・技能を修得したい人

## 経済学部

### 1. 学部の教育目的

本学部は、経済学・経営学・会計学・情報学・法学など、多様化・複雑化する経済社会の問題発見・解決に不可欠な社会科学の諸分野の教員を揃え、次のような人材の育成を目的とします。

- (1) 基礎学力（幅広い教養と論理的思考力）と広い視野（社会科学の諸分野の専門知識と実務能力）を礎として、多様で変化の激しい予測困難な社会を体系的に理解できる人材
- (2) 個人の自立と他者との協働を図りながら、経済社会のさまざまな問題を真摯に受け止め、その解決に向けて的確に判断し創造的・実践的・主体的に行動できる人材

具体的には、金融業・サービス業・製造業などの各種産業や、公務・会計・税務・法務・商業教育・調査研究等の分野において、国際社会および地域社会で活躍できる人材の育成を目指します。

### 2. アドミッション・ポリシー

上記のような教育目的に基づき、次のような人を求めています。

- (1) 経済学・経営学・法学等を学ぶ上で必要となる幅広い基礎学力を有する人。
- (2) 社会・経済における諸問題に関心を持ち、卒業後、専門知識を活かして関連分野で能力を発揮したい人。
- (3) 主体的に学修し、新しいことに積極的に挑戦する意欲を有する人。
- (4) コミュニケーション能力を持ち、協調性があり活発に議論ができ、リーダーシップを有する人。

また、特にスポーツ推薦入試では次のような人を求めます。

- (5) スポーツマネジメントに関心を持ち、関連する経営学・経済学などの専門領域の学修に積極的に取り組める人。
- (6) スポーツの実践・普及・振興に関心を有する人。

### 3. 入学者選抜の基本方針

本学部では、一般入試（前期日程・後期日程）のほか、推薦入試・スポーツ推薦入試・社会人特別入試・帰国子女特別入試・私費外国人留学生特別入試および第3年次編入試など、複数の入学者選抜方式を採用することで、多様な人材の受け入れを目指しています。

- (1) 一般入試（前期日程）では、大学入試センター試験で5～6教科の基礎的・総合的学力をみ

るとともに、個別学力検査では英語と数学を実施します。

- (2) 一般入試（後期日程）では、大学入試センター試験で外国語を含む2～3科目の基礎的な学力をみるとともに、個別学力検査（小論文）の配点を大きくとることで、社会科学を学ぶ上で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）に秀でた人を求めます。
- (3) 推薦入試では、高等学校において優秀な学業成績を収め、かつ、社会科学を学ぶ上で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）を有するとともに、高いコミュニケーション能力を有する人を求めます。
- (4) スポーツ推薦入試では、高等学校において優秀なスポーツ成績と良好な学業成績を収め、かつ、社会科学を学ぶ上で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）を有するとともに、高いコミュニケーション能力を有する人を求めます。
- (5) 以上のほか、社会人特別入試・帰国子女特別入試・私費外国人留学生特別入試および第3年次編入試を行い、多様な人材の受け入れを目指します。

## システム工学部

### 1. 学部の教育目的

工学ではなく「システム工学」という学部名称には、教育対象の複合性・総合性が意識されています。したがって本学部の教育目的としてまず第一に、

- (1) 視野を広く持ち、技術を体系的に理解できる能力を養う

ことをあげなければなりません。

しかし、初めて高等教育を受ける受験生に対して、総合力だけに重点をおくこともできません。よって、

- (2) 専門領域に応じた基礎学力・基礎技術を確実に修得させる

こともまた必要です。すなわち、本学部では専門性にある程度の幅をもたせて科学技術の教育を行うことを目的とします。

「システム」にはまた応用性を重視するという意味合いも含まれています。

本学部では実学教育を旨とし、

- (3) 産業・社会のニーズに即応できる実践力を養うこと

も目的として掲げています。

これには、知識と技術を実際の製造物に応用できる能力とともに、システムを開発・運用するプロセスに必要なコミュニケーション能力を養うことも含まれます。

### 2. アドミッション・ポリシー

前節で設定した教育目的を実現するため、本学部の受験生に対し、下記のようなアドミッション・ポリシーを掲げています。高等学校等で履修すべき具体的な教科・科目等については、入学者選抜実施教科・科目を参考にしてください。

- (1) 工学系大学教育にたえるため、理数系の基礎知識と問題解決能力を求める。
- (2) システム工学特有の複合領域の大学教育に適合するよう、論理的思考力と状況判断力、さらに高い倫理感を求める。
- (3) 今日の技術者・研究者に必要な英語力とコミュニケーション力の素養を求める。

### 1. 学部の教育目的

21世紀は「観光の時代」と言われ、世界のあらゆる国・地域で最も有望な成長分野として観光が注目を集めています。わが国においても観光は戦略産業と位置づけられ、官民一体での「観光立国」実現に向けた政策や取り組みが加速するなか、観光産業や行政の現場と密接に連携しながら、新しい観光学の創造および観光を支えるに相応しい豊かな教養と専門性ならびにグローバル時代に対応したハイレベルな国際的・学際的視点を持つ観光人材の輩出が期待されています。

このような背景のもと、観光学部では「観光経営」・「地域再生」・「観光文化」という3つの基本領域（コース）の相互関係として観光学の学問体系の全体像を認識しつつ、このうちのいずれかの領域に主たる専門性（より深い教養）を発揮できる人材を養成することを目指します。

現代社会で求められる実践的な諸課題に対しては、専門性を活かして応用することができる「包括的対応力（ジェネリックスキル）」が必要です。英語による専門科目の履修機会を飛躍的に増加させることにより、異文化コミュニケーション力を高め、グローバル化した社会状況への高度な対応力を涵養することを重視します。さらに、地域の諸課題に取り組む実践型教育の機会を拡充することにより、オンサイトでの創造的実践力を身に付けることを目指します。

### 2. アドミッション・ポリシー

- (1) 学問への探求心にあふれ、課題解決のために論理的に思考できる人
- (2) 明確な目的意識を持ち、新しいことに積極的に挑戦できる人
- (3) 高いコミュニケーション能力を持ち、リーダーシップを発揮できる人
- (4) 観光に関連する組織体の経営問題に関心がある人
- (5) 観光を通じた地域再生の問題に関心がある人
- (6) 国際的な交流や、国内外の様々な地域の文化に関心がある人
- (7) インターンシップやフィールドワーク調査などの学外実習に意欲的に取り組むことのできる人
- (8) 大学で修得した知識を活用して社会で活躍したい人

# I 入学定員および募集人員

学部	学科・課程	入学定員	募集人員								
			一般入試		特別選抜						
			前 期 日 程	後 期 日 程	推薦 入試 (一般)	推薦 入試 (地域 〔紀南〕)	スポ ーツ 推薦 入試	帰国 子女 特別 入試	社会 人 特別 入試	AO 入試	私費 外国人 留学生 特別 入試
教育学部	学校教育教員養成課程	165※	100※ (備考1参照)	35※ (備考1参照)	20	10	—	—	—	—	若干名
	小計	165	100	35	20	10	—	—	—	—	—
経済学部	経済学科	300	180	80	30	—	4	3	3	—	若干名
	小計	300	180	80	30	—	4	3	3	—	—
システム工学部	システム工学科	305	170	100	35	—	—	—	—	—	若干名
	小計	305	170	100	35	—	—	—	—	—	—
観光学部	観光学科	120	55	35	25	—	—	—	2	3	若干名
	小計	120	55	35	25	—	—	—	2	3	—
合計		890	505	250	110	10	4	3	5	3	—

※入学定員，募集人員については，[概算要求中]です。

[備考]

1 教育学部の学校教育教員養成課程の一般選抜は，次のとおり募集します。

課程	系・専攻	募集人員		
		前期日程	後期日程	
学校教育教員養成課程	文科系	45	25	
	理科系	35	10	
	実技系	音楽又は美術	10	/
		保健体育	10	
計		100	35	

(注)①文科系または理科系を受験し，合格した人は，入学後に各コース（初等教育コース，中等教育コース，特別支援教育コース）への所属を決定します。

②実技系を受験し，合格した人は，入学後に各コース（初等教育コース，中等教育コース）への所属を決定します。

2 教育学部の一般入試の募集区分と入学後のコース・専攻の対応は下表のとおりです。

募集区分		入学後のコース・専攻		
学校教育教員養成課程	文科系	初等教育コース	教育学, 心理学, 国語科教育, 英語教育, 社会科教育, 家庭科教育, 音楽科教育, 図画工作科教育, 体育科教育	
		中等教育コース	教育学, 心理学, 国語科教育, 英語科教育, 社会科教育, 家庭科教育, 音楽科教育, 美術科教育, 保健体育科教育	
		特別支援教育コース	特別支援教育学	
	理科系	初等教育コース	教育学, 心理学, 算数科教育, 理科教育, 家庭科教育, 音楽科教育, 図画工作科教育, 体育科教育	
		中等教育コース	教育学, 心理学, 数学科教育, 科学教育, 家庭科教育, 音楽科教育, 美術科教育, 保健体育科教育	
		特別支援教育コース	特別支援教育学	
	実技系	音楽又は美術	初等教育コース	音楽科教育 図画工作科教育
			中等教育コース	音楽科教育 美術科教育
		保健体育	初等教育コース	体育科教育
中等教育コース			保健体育科教育	

(注) なお上記の欄は変更されることがあります。

3 特別入試の推薦入試, スポーツ推薦入試, 帰国子女特別入試, 社会人特別入試, A O入試の合格者(入学手続者)が, その募集人員に満たない場合には, その差の募集人員を前期日程の募集人員に含めて募集します。

4 私費外国人留学生特別入試は, 入学定員外として募集します。

## II 出願資格

入学を志願できる者は, 次のいずれかに該当する者とします。

- 1 高等学校(中等教育学校の後期課程を含みます。)を卒業した者及び平成28年3月卒業見込みの者。
- 2 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成28年3月修了見込みの者。
- 3 大学入学に関し, 高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として, 次のいずれかに該当する者。
  - (1) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び平成28年3月までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
  - (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び平成28年3月までに修了見込みの者。
  - (3) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が別に定める日以降に修了した者及び平成28年3月までに修了見込みの者。
  - (4) 文部科学大臣の指定した者(昭和23年文部省告示第47号)
  - (5) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者及び平成28年3月31日までに合格見込みであることが証明される者。(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)による大学入学資格検定に合格した者を含みます。)



- (6) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成28年4月1日までに18歳に達する者。

上記出願資格3の(6)により出願する者は、個別に入学資格の認定を受ける必要がありますので、8ページの「VI 個別の入学資格審査の申請方法等」を参照のうえ、申請してください。

### III 入学試験の実施方法

一般入試は、学科・課程・系の入学定員を分割し、「前期日程」および「後期日程」による「分離分割方式」で個別学力検査等を実施し、合格者を決定します。

### IV 出願要件

一般入試に出願する者は、平成28年度大学入試センター試験で本学が指定した教科・科目を受験しなければなりません。本学が指定する平成28年度大学入試センター試験の教科・科目を1つでも受験していない者は、出願することはできません。なお、本学では過年度の大学入試センター試験の成績は利用しません。

#### ○大学入試センター試験の受験を要する教科・科目の確認

出願にあたっては、12ページ～21ページの「入学試験実施教科・科目等」の表により、各学部が指定する大学入試センター試験の教科・科目を受験していることを志願者自身が確認をしてください。

なお、「入学願書等の記入方法」の裏面の「大学入試センター試験受験教科・科目確認表」による確認も必ず行ってください。

### V 他の国公立大学・学部および本学学部間の併願

志願者は、個別学力検査等について、「前期日程」から1つ、「後期日程」から1つの合計2つの大学に出願することができます。したがって、「前期日程－後期日程」の併願はできますが、「前期日程－前期日程」、「後期日程－後期日程」の併願はできませんので注意してください。

本学の学部間においても、「前期日程」から1つ、「後期日程」から1つの合計2つの学部または学部の学科・課程等に併願することができます。その場合は、それぞれに出願書類を提出し、入学検定料を納めてください。

また、他の国公立大学・学部（独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除きます。以下同じ。）および本学の推薦入試・AO入試に合格した者は、本学に出願済の「前期日程試験」または「後期日程試験」を受験しても、入学許可は得られません。

ただし、推薦入試・AO入試を実施する他大学・学部および本学の定める手続きにより入学辞退を許可された場合は、この限りではありません。

さらに、前期日程試験に合格し、平成28年3月15日までに入学手続を行った者は、後期日程試験を受験してもその合格者とはなりません。

## VI 個別の入学資格審査の申請方法等

### 1 入学資格審査の対象者

次のいずれにも該当する者

- (1) 学校教育法に規定する通常の課程の修了者(修了見込み者を含みます。)に該当しない者で、入学する年度の学年の初めにおいて18歳以上である者。
- (2) 申請者の学習歴、実務経験および取得している資格等を総合的に判断し、次のいずれかに該当し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者。
  - ①個人の学習歴等が高等学校を卒業した者と同等以上の学力を有する者と本学が認める者。
  - ②取得している資格等に係る資格試験において、高等学校を卒業した者と同等以上の学力を有することを確認する学力試験を課し、かつ専門的知識等を審査のうえ与えられる職業資格を取得している者で、本学が相当と認める者。

### 2 審査方法

本学ウェブサイト参照してください。

和歌山大学 ウェブサイト URL : <http://www.wakayama-u.ac.jp/admission/faculty/competence/>

### 3 申請手続

#### (1) 受付期間

平成28年1月18日(月)～平成28年1月20日(水)〔必着〕

申請書類に不足等がある場合は、申請を受付出来ませんので、不明なことは早い時期にご相談ください。

#### (2) 審査の時期

申請のあった都度、随時。

#### (3) 申請書類

- ①「入学資格認定申請書」(本学所定の様式)
- ②「履歴書」(本学所定の様式)
- ③出身学校が発行する成績証明書等
- ④出身学校の教育課程の内容を証明する書類
- ⑤審査対象として希望する職歴、資格等に関する証明書等
- ⑥その他、本学が提出を求めた書類

詳細は、本学ウェブサイト参照してください。

#### (4) 申請書の提出方法および提出先

申請者は、申請書類を申請期限までに持参するか郵送(期限内必着)してください。郵送する場合は、封筒表面に「大学入学資格認定申請書在中」と朱書し、必ず書留郵便で郵送してください。

提出先：和歌山大学入試課

### 4 審査結果の通知

審査の結果は、申請者に対し郵送により通知します。入学資格が認定された者には「入学資格認定書」を交付します。

### 5 本件に関する問合せ先

〒640-8510 和歌山市栄谷 930

和歌山大学入試課

TEL073-457-7116(直通)

## VII 出願手続

### 1. 出願に必要な書類等

本冊子に綴り込みの本学所定の出願書類等（\*印）に調査書等を添えて、前期日程用と後期日程用を混同しないように、よく確認し提出してください。

なお、入学願書等の記入方法については、折り込みの「入学願書等の記入方法」を参照してください。

出願書類等の種類	出願書類作成および提出上の主な注意事項
* 入学願書	<u>前期日程</u> 用と <u>後期日程</u> 用の2種類があります。混同しないように作成してください。
* 電算処理票	入学願書、受験票、写真票と共に1枚の用紙となっています。ミシン目から切り離さないで、必要事項を記入し、「大学入試センター試験成績請求票貼付欄」に該当する試験日程用の大学入試センター発行の『平成28センター試験成績請求票』を貼ってください。
* 受験票・写真票	入学願書と電算処理票と共に1枚の用紙となっています。ミシン目から切り離さないで、必要事項を記入してください。写真は、出願前3か月以内に撮影した同一のもの（縦4cm×横3cm、脱帽・無背景・胸より上を撮影した顔写真）を、「受験票」および「写真票」の写真貼付欄に、剥がれないように貼ってください。
調 査 書 等	<p>① 高等学校(中等教育学校の後期課程を含みます。)を卒業した者または平成28年3月までに卒業見込みの者は、出身学校長が文部科学省所定の様式により作成し、厳封したものを提出してください。</p> <p>※ なお、指導要録の保存期間を経過した者、または廃校・被災その他の事情により調査書が得られない場合は、次のとおり取扱います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>高等学校を卒業後5年を経過した者</u> 指導要録(指導に関する記録)の保存期間を経過していることから、その記録の記載のない調査書で差し支えありません。</li> <li>・ <u>高等学校を卒業後20年を経過した者</u> 指導要録の保存期間を経過していることから調査書に代え、卒業証明書及び成績通知書等を提出してください。</li> <li>・ <u>廃校・被災その他の事情により調査書が得られない場合</u> 卒業証明書及び成績通知書等を提出してください。</li> </ul> <p>② 高等専門学校第3学年修了者および文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者については、出身学校において文部科学省所定の調査書に準じて作成した書類をもって調査書に代えることができます。</p> <p>③ 高等学校卒業程度認定試験合格者(大学入学資格検定合格者を含みます。)は、合格成績証明書をもって調査書に代えることができます。ただし、高等学校等において科目を修得したことにより受験科目を一部免除された場合は、その免除された科目の高等学校等の調査書または成績証明書を添えてください。</p> <p>④ 外国において学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者、国際バカロレア資格取得者、アビトゥア資格取得者、バカロレア資格(フランス共和国)取得者および文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科を修了した者は、成績証明書をもって調査書に代えることができます。</p>
* 実技検査 選択種目提出票 (教育学部出願者のみ)	教育学部の学校教育教員養成課程実技系「音楽又は美術」出願者のうち、「音楽」選択者、または同課程実技系「保健体育」出願者は、該当の実技検査選択種目提出票を作成して提出してください。
* スポーツ歴調書 (教育学部出願者のみ)	教育学部の学校教育教員養成課程実技系「保健体育」出願者は、出身学校長等が作成したスポーツ歴調書を作成して提出してください。

<p>入学検定料 (* 振込依頼書)</p>	<p><b>17,000円</b></p> <p>〈入学検定料の納入方法〉</p> <p>納入方法は、銀行振込となります。本要項に添付の振込依頼書に必要事項を記入の上、「電信扱」が利用できる金融機関窓口（ゆうちょ銀行を除く）から振込してください。</p> <p>振込手数料は志願者負担となります。</p> <p>振込後、取扱金融機関の収納印が押印されていることを確認し、「振込金受付証明書（C票）」を入学願書の所定欄に貼付して提出してください。また、「振込金領収書（B票）」は大切に保管してください。</p> <p>注1) 通常、金融機関の窓口営業時間は、午後3時までです。また、土日・祝日は休業となります。</p> <p>注2) ATM〈現金自動預払機〉、携帯電話、パソコン等からは振り込まないでください。</p> <p><b>出願書類受理後は、入学検定料の返還はできません。</b>但し、入学検定料を払い込んだが出願しなかった場合または誤って二重に振り込んだ場合は17,000円を、また、出願受付後に大学入試センター試験受験科目の不足等による出願無資格者であることが判明した場合には、入学検定料17,000円のうち13,000円を平成28年3月4日までに返還請求を行った場合に限り返還します。</p>
<p>* 宛名票(シール)</p>	<p>前期日程用と後期日程用の2種類ありますので、提出の際、間違えないように注意してください。</p>
<p>* 「受験票在中」封筒</p>	<p>前期日程用と後期日程用の2種類の封筒があります。なお、必ず、<b>362円切手を貼ってください。</b>(複数枚の切手を貼る場合は、重ならないように貼ってください。)</p>
<p>* 「入学願書在中」封筒(出願用)</p>	<p>前期日程用と後期日程用の2種類の封筒があります。提出する書類等を混同しないように、各封筒裏面の提出書類等確認表で必要な提出書類を確認してください。</p>
<p>一般入試出願書類 受付通知はがき</p>	<p>前期日程と後期日程の2種類があります。</p> <p>郵便番号、住所、氏名、志望学部、志望課程・系（専攻）を記入し52円切手を貼り、出願書類とともに提出してください。</p> <p>52円切手の無いものは送付しません。</p>

## 2. 出願期間

**平成 28 年 1 月 25 日（月）から 2 月 3 日（水）まで。〔期間内必着〕**

（※前期日程，後期日程ともに同じ出願期間です。）（※消印有効ではありません！）

平成 28 年 2 月 3 日（水）午後 5 時までに和歌山大学に必着するように，郵便事情を考慮し，余裕をもって郵送してください。（平成 28 年 2 月 3 日（水）午後 5 時以後に到着したものは受理しません。）

ただし，平成 28 年 2 月 2 日（火）までの発信局消印のある書留速達郵便で，平成 28 年 2 月 4 日（木）正午までに和歌山大学に到着した出願書類に限り，例外的に受理します。

また，平成 28 年 2 月 3 日（水）の午前 9 時 30 分から午後 5 時 00 分までに限り，下記の提出先へ持参することができます。

## 3. 提出先

〒640-8510 和歌山市栄谷930番地

**和歌山大学入試課**

## 4. 出願に関する全般的な注意事項

- (1) 出願書類受理後は，出願書類は返却しません。また出願の取り消しも認めません。
- (2) 電算処理票に，該当する試験日程用の大学入試センター発行の「平成 28 センター試験成績請求票」を貼付していない場合は，書類不備として受理しません。また，センター試験成績請求票の再発行を受けた場合は，再発行された「平成 28 センター試験成績請求票」を貼付してください。
- (3) 前期日程試験および後期日程試験の個別学力検査等で受験する教科・科目等は出願時に選択してください。ただし，出願後の変更は認めません。
- (4) 出願後，提出書類の記載内容等の変更は，原則として認めません。
- (5) 出願書類の記載ミスや漏れ・不足等は，書類不備として受理せずに，出願書類を返却することがあります。提出の際は，十分に点検してください。
- (6) 提出書類に虚偽があった場合は，入学後でも入学許可を取り消すことがあります。

## 5. 『教育学部』を志望する場合の出願に関する注意事項

- (1) 教育学部志願者は文科系，理科系，実技系「音楽又は美術」，実技系「保健体育」の中から 1 つを選んでください。なお，実技系の募集は前期日程のみです。
- (2) 前期日程志願者で「地理歴史」または「理科」を受験する者は，下記の「地理歴史」選択科目群または「理科」選択科目群から 1 科目を出願時に選択してください。
  - 「地理歴史」選択科目群：『日本史』，『世界史』，『地理』のいずれか 1 科目選択。
  - 「理科」選択科目群：『物理』，『化学』，『生物』，『地学』のいずれか 1 科目選択。

## 6. 受験票の送付について

受験票は，平成 28 年 2 月 15 日（月）頃に「速達」郵便で送付します。2 月 18 日（木）までに郵送されない場合は，入試課までお問い合わせください。

「前期日程試験」または「後期日程試験」を受験する当日には，『本学受験票』と『平成 28 年度大学入試センター試験受験票』を必ず持参してください。

## [ 1 ] 教 育 学 部

### 1. 入試方法等

入学者の選抜は、大学入試センター試験ならびに本学が実施する個別学力検査・実技検査等および調査書等の出願書類により総合して行います。

学校教育教員養成課程実技系「音楽又は美術」、実技系「保健体育」を志望する者に対しては、個別学力検査は課さないで、それぞれ当該教科の実技検査を課します。

なお、本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目を全科目受験しなければ、個別学力検査等を受験することはできません。

また、個別学力検査等において、本学が指定する教科・科目等を全教科受験しない場合、出願時に届け出た個別試験科目以外で受験した場合は、合格者選考の対象にはなりません。

### 大学入試センター試験受験に際しての注意事項

本学における平成 28 年度入学者選抜における大学入試センター試験の取扱いは、下記のとおりですのでご注意ください。

#### ○英語の受験について

大学入試センター試験で英語を受験する方は、筆記試験とリスニング試験の両方を受験しなければなりません。一方でも受験しなかった場合は、本学が行う個別試験を受験する資格がなくなります（重度聴覚障害者でリスニング試験免除者を除きます）。

2. 入学試験実施教科・科目等

学部・学科等名及び入学定員等 〔平成27年度 志願率〕	学力検査等の区分・日程	入学試験センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										特別の入試方法等
		教科等	科目名		試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合問題	小論文	実技	
<b>教育学部</b> (4.7) 前期 165人 後期 100人 前期 35人 後期 30人	文科系 前期 70人 後期 45人 前期 25人 後期 25人	国語総合	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※	国語総合	200	*100 *100	200	100	200	200			900	推薦 入費外国 留学生 追加合格	
		歴史	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※	歴史	200	*100 *100									400
	公民	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※	公民	*200											1300
	数	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※	数	200	*100 *100	200	100	200	200	*200			900		
理科系 前期 45人 後期 35人 前期 10人 後期 10人	前期 2月25日 後期 3月12日	国語総合	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※	国語総合	200	*100 *100	200	100	200	200			900		
		歴史	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※	歴史	200	*100 *100								200	
	公民	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※	公民	*200										1100	
	数	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※	数	200	*100 *100	200	100	200	200	*200			900		
実技系 「保健体育」 前期 10人 後期 10人	前期 2月25日 後期 3月12日	国語総合	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※	国語総合	200	*100 *100	200	100	200	200			900		
		歴史	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※	歴史	200	*100 *100								400	
	公民	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※	公民	*200										1300	
	数	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※	数	200	*100 *100	200	100	200	200	*200			900		

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- ①選択教科・科目のうち、必要教科・科目数を超えている場合には、高得点の教科・科目を選択します。ただし、地歴および公民から1科目を利用する場合は、得点にかかわらず、第1解答科目を選択します。同様に、理科で基礎を付していない1科目を利用する場合は、得点にかかわらず、第1解答科目を選択します。
- ②「簿記・会計」「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校(中等教育学校の後期課程を含みます。)において、これらの科目を履修した者(大学入学資格検定試験合格者で、これらの科目に合格した者を含みます。)
- ③「学校教育教員養成課程(実技系)」を受験する者は、地歴および公民から2科目を選択しない科目2科目を基礎を付していない科目1科目を選択していただきます。
- ④外国語の「英語」については、筆記試験(200点)とリスニングテスト(50点)の合計得点を200点に換算したものを得点(満点)とします。
- ⑤旧教育課程履修者に限り、数学の「数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1」の選択科目として、経過措置科目として、経過措置科目である「工業教員基礎」を選択することもできます。ただし、「工業教員基礎」を受験する者は、高等学校(中等教育学校の後期課程を含みます。)において、この科目を履修した者(大学入学資格検定試験合格者で、これらの科目に合格した者)を含みます。)

※ 地歴又は公民で2科目を選択する場合には、同一名称のA・B出題科目、同一名称を含む出題科目同士との組み合わせはできません。

【個別学力検査等】欄

- ①「国語総合」については、近代以降の文章、古典(古文、漢文)から出題します。
  - ②「数学Ⅰ, 数学Ⅱ」については全範囲を出題範囲とします。数学Bについては、「数列」, 「ベクトル」を出題範囲とします。
  - ③「英語表現Ⅰ」については、リスニングを出題範囲から除きます。
- 【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄
- ①配点に\*印を付している教科は、選択教科を表します。
  - ②実技系の選抜にあたっては、実技試験の点数が200点に達しない者は総合点にかかわらず不合格とします。

### 3. 実技検査要項

課程・系		学校教育教員養成課程・実技系		
実施日程		前期日程		
志望教科	検査内容		注意事項	
音楽	実技Ⅰ群	A. 声楽	<p>○次の曲を原語・暗譜で演奏してください。 ○調性は任意で良いが、演奏する調性の伴奏用の楽譜のコピーを志願票とともに1部提出してください。(伴奏者は大学側が用意します。) A.F. テナーリア作曲 「美しい瞳よ、慈悲を (Begli occhi, merce')」</p> <p>高中声用は全音楽譜出版社刊『イタリア歌曲集2』, 低声用は教育芸術社刊『イタリア古典声楽曲集2』を使用してください。</p>	<p>選択種目提出票(所定様式)を出願時に提出してください。</p> <p>受験の組み合わせは以下の3とおりとします。いずれかひとつの組み合わせを選んで受験してください。 Aと2, Bと1, Cと2</p>
		B. ピアノ	<p>○次の曲を暗譜で演奏してください。(くり返しは省略します。) L. van ベートーヴェン作曲「ピアノソナタ No.6 Op.10-2 第1楽章」</p>	
		C. 管・打楽器	<p>○任意の1曲を無伴奏で演奏してください。 ○暗譜の必要はありません。(演奏時間が長い場合は、途中でカットすることがあります。) ○演奏する楽曲の楽譜のコピーを志願票とともに1部提出してください。 ○楽器及び演奏に必要なものは各自持参してください。但し、マリンバの場合、大学で用意する楽器(サイトウ MS-75 (4オクターヴ, 49鍵, C28~C76))で演奏してください。 【受験可能楽器】 フルート, オーボエ, クラリネット, ファゴット, サクソフォーン, ホルン, トランペット, トロンボーン, ユーフォニアム, テューバ, マリンバ, スネア・ドラムからひとつを選択</p>	
	実技Ⅱ群	<p>1. 声楽</p> <p>○次の曲を暗譜のうへ母音のaで演奏してください。 ○調性は任意で良いが、演奏する調性の伴奏用の楽譜のコピーを志願票とともに1部提出してください。(伴奏者は大学側が用意します。) 『コンコーネ 50番』より7番</p> <p>全音楽譜出版社刊『コンコーネ 50番』を使用してください。</p> <p>2. ピアノ</p> <p>○次の曲を暗譜で演奏してください。(くり返しは省略します。) L. van ベートーヴェン作曲「ピアノソナタ No.25 Op.79 第3楽章」</p>		
美術	共通 (全員が受験してください。)	造形表現Ⅰ(平面)	<p>与えられたモチーフを配置し、鉛筆を用いて素描してください。 (試験時間:120分)</p>	
		造形表現Ⅱ(立体)	<p>与えられた主題を、配付された素材(紙)の特性を生かして立体的に表現してください。 (試験時間:180分)</p>	
保健体育	共通 (全員が受験してください。)	[基礎運動能力テスト]	<p>1. 12分間走 2. 立ち幅跳び 3. ハンドボール投げ 4. マット運動</p>	<p>出身学校長等の作成したスポーツ歴調書(所定様式)および志願者が作成した選択種目提出票(所定様式)を出願時に提出してください。</p> <p>雨天の場合は基礎運動能力テストの種目に一部変更があります。</p> <p>○各種目に応じたシューズの使用を認めます。体育館シューズを別に用意してください。 ○バドミントン・テニス受験者はラケットの持参を認めます。 ○柔道受験者は柔道衣を持参してください。 ○野球受験者はグローブ、バット、ヘルメットを持参してください。</p>
		[種目別 実技テスト]	<p>1. 陸上競技(100m, 800m, 走幅跳, 走高跳, 砲丸投, 槍投, ハンマー投, 円盤投から1種目)</p> <p>2. バスケットボール</p> <p>3. バレーボール</p> <p>4. サッカー</p> <p>5. 柔道</p> <p>6. バドミントン</p> <p>7. 創作ダンス</p> <p>8. 野球(硬式)</p> <p>9. ハンドボール</p> <p>10. テニス(硬式)</p>	

※ 保健体育を志望する者のうち、出願資格が高等学校卒業程度認定試験合格等の場合は、「スポーツ歴調書」の作成者について入試課まで問い合わせてください。



## [2] 経済学部

### 1. 入試方法等

入学者の選抜は、大学入試センター試験ならびに本学が実施する個別学力検査および調査書等の出願書類により総合して行います。

なお、本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目を全科目受験しなければ、個別学力検査を受験することはできません。

また、個別学力検査等において、本学が指定する教科・科目等を全教科受験しない場合、出願時に届け出た個別試験科目以外で受験した場合は、合格者選考の対象にはなりません。

### 大学入試センター試験受験に際しての注意事項

本学における平成 28 年度入学者選抜における大学入試センター試験の取扱いは、下記のとおりですのでご注意ください。

#### ○英語の受験について

大学入試センター試験で英語を受験する方は、筆記試験とリスニング試験の両方を受験しなければなりません。一方でも受験しなかった場合は、本学が行う個別学力検査を受験する資格がなくなります（重度聴覚障害者でリスニング試験免除者を除きます）。

2. 入学試験実施教科・科目等

学部・学科等名及び入学定員等 〔平成27年度 志願倍率〕	学力検査等の区分・日程	入学試験センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等 等	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等						特別の入試方法等			
		教科	科目名等		試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科		外国語	総合問題	小論文
経済学部 〔4.4〕 前期 300人 180 後期 80 その他 40	前期 2月25日	国	国語	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・英Ⅰ・英Ⅱ・英Ⅲ・英Ⅳ	センター試験	200	*100	*100	200	100	200		900	推薦 スポーツ 推薦 帰国子女 社会人 私費外国 人留学生 追加合格
		地歴	地理B	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・英Ⅰ・英Ⅱ・英Ⅲ・英Ⅳ	個別学力検査				(600) (300)					
	後期 3月12日	国	国語	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・英Ⅰ・英Ⅱ・英Ⅲ・英Ⅳ	計	200	*100	*100	(800) (500)	100	(500) (800)		1800	
		地歴	地理A	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・英Ⅰ・英Ⅱ・英Ⅲ・英Ⅳ	センター試験	*100	*100	*100	*100	*100	400		600	
		理	物理	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・英Ⅰ・英Ⅱ・英Ⅲ・英Ⅳ	個別学力検査						1200		1200	
		外	英語	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・英Ⅰ・英Ⅱ・英Ⅲ・英Ⅳ	計	*100	*100	*100	*100	*100	1200		1800	

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- ①選択教科・科目のうち、必要教科・科目数を超えている場合には、高得点の教科・科目を選択します。ただし、地歴および公民から1科目を利用する場合は、得点にかかわらず、第1解答科目を採択します。
- ②第1解答科目を採択する者は、同様に、理科で基礎を付けない1科目を利用する場合も、得点にかかわらず、第1解答科目を採択します。
- ③「簿記・会計」「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校(中等教育学校の後期課程を含みます。)において、これらの科目を履修した者(大学入学資格検定試験合格者で、これらの科目日程を受験する者は、地歴・公民の2科目を選択する際、【世B、日B、地理B】から必ず1科目以上を選択すること。
- ④後期日程を受験する者は、国語、地歴・公民、数学、理科から2科目または3科目を選択する際、次の選択を可とする。
  - a. 地歴・公民から2科目
  - b. 数学から2科目
  - c. 理科の基礎を付している科目から2科目と、国語、地歴、地理、公民、数学から1科目の計3科目を選択。
  - d. 理科の基礎を付していない科目から1科目と、国語、地歴、地理、公民、数学から1科目の計2科目を選択。
- ⑤外国語の「英語」については、筆記試験(200点)とリスニングテスト(50点)の合計得点を200点に換算したものを得点(素点)とします。
- ⑥地歴または公民で2科目を選択する場合には、同一名称のA・B出題科目、同一名称を含む出題科目同士との組み合わせはできません。
- ⑦後期日程において、地歴および公民の中から第2解答科目の得点を採択する場合は、第1解答科目の得点を採択する場合があります。
- ⑧旧教育課程履修者に限り、数学の「数Ⅱ、数Ⅲ、情報から1」の選択科目として、経過措置科目である「工業数理基礎」を選択することもできます。ただし、「工業数理基礎」を選択解答できる者は、高等学校(中等教育学校の後期課程を含みます。)において、この科目を履修した者(大学入学資格検定試験合格者で、これらの科目に合格した者を含みます。)および文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了者(現社、倫、政経、倫、政経、倫、政経)から0または1【現社、倫、政経、倫、政経、倫、政経】を組み合わせ計2科目を選択。

【個別学力検査等】欄

- ①数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Aは全範囲を出題範囲とします。数学Bについては、「数列」「ベクトル」を出題範囲とします。
- ②前期日程で「簿記」を選択解答できる者は、高等学校(中等教育学校の後期課程を含みます。)において、これらの科目を履修した者(大学入学資格検定試験合格者で、これらの科目に合格した者を含みます。)および文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込)者に限ります。
- ③「英語表現Ⅰ」については、リスニングを出題範囲から除きます。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

- ①配点に\*印を付している教科は、選択教科を表します。
- ②前期日程の個別学力検査において、「数学」「外国語」は各300点とし、高得点の教科の点数を2倍します。

## [ 3 ] システム工学部

### 1. 入試方法等

入学者の選抜は、大学入試センター試験ならびに本学が実施する個別学力検査等および調査書等の出願書類により総合して行います。

なお、本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目を全科目受験しなければ、個別学力検査を受験することはできません。

また、個別学力検査等において、本学が指定する教科・科目等を全教科受験しない場合、出願時に届け出た個別試験科目以外で受験した場合は、合格者選考の対象にはなりません。

### 大学入試センター試験受験に際しての注意事項

本学における平成 28 年度入学者選抜における大学入試センター試験の取扱いは、下記のとおりですのでご注意ください。

#### ○英語の受験について

大学入試センター試験で英語を受験する方は、筆記試験とリスニング試験の両方を受験しなければなりません。一方でも受験しなかった場合は、本学が行う個別試験を受験する資格がなくなります（重度聴覚障害者でリスニング試験免除者を除きます）。

2. 入学試験実施教科・科目等

学部・学科等名及び入学定員等 〔平成27年度 志願倍率〕	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の 利用教科・科目名		個別学力検査等 科目名等	2段階 併選 科目	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							特別の 入試方法 等		
		教科	科目名等			試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語		総合 問題	小論文・実技
システム工学部 〔3.8〕  前期 305人 後期 170人 その他 100人 35	システム工学学科  前期 2月25日	国	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1	教I・教II・教III・教A・教B コミュニケーション・英語II・ コミュニケーション・英語I	センター試験	200	*100	*100	200	400	200			1100	推薦 私費外国 人留学生 追加合格
		地歴 公民 数	倫, 政経, 倫・政経 } から1												
	後期 3月12日	国	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1	その他 総合問題「記述解答問題」 (システム工学を学ぶにふさわしい能力・ 適性等を判断する。) <詳細は、P19を参照してください。>	センター試験	200	*100	*100	300	300	200			1100	
		地歴 公民 数	倫, 政経, 倫・政経 } から1										400		400
		理 外	物, 化, 生, 地から2 英 (リスニングを含む), 独, 仏, 中, 韓から1		個別学力検査							400		400	
			英 (リスニングを含む), 独, 仏, 中, 韓から1		計	200	*100	*100	400	400	200	400		1500	
					計	200	*100	*100	300	300	200	400		1100	
					個別学力検査							400		400	
					計	200	*100	*100	300	300	200	400		1500	

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- ① 地歴および公民において、必要教科・科目数を超えて受験している場合には、得点にかかわらず第1解答科目を採択します。
- ② 「簿記・会計」「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校(中等教育学校の後期課程)の修了(見込)者に限り、これらの科目を履修した者を含みます。 ) および文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込)者に限り、これらの科目を履修した者(大学入学資格検定試験合格者で、これらの科目を履修した者)を含みます。 ) および文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了者(大学入学資格検定試験合格者で、これらの科目を履修した者)を含みます。 ) および文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了者(大学入学資格検定試験合格者で、これらの科目を履修した者)を含みます。 )
- ③ 外国語の「英語」については、筆記試験(200点)とリスニングテスト(50点)の合計得点を200点に換算したものを得点(素点)とします。
- ④ 旧教育課程履修者に限り、数学の「教I・教II・教B, 簿, 情報から1」の選択科目として、経過措置科目である「工業数理基礎」を選択することもできます。

【個別学力検査等】欄

- ① 数学I, 数学II, 数学III, 数学A は全範囲を出題範囲とします。数学B は「数列」, 「ベクトル」を出題範囲とします。
- ② 「英語表現I」については、リスニングを出題範囲から除きます。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

配点に\*印を付してある教科は、選択教科を表します。

### 3. 総合問題の出題内容

総合問題では、教科ごとの学習到達度だけではなく、問題に対する総合的な分析力・応用力を問います。  
システム工学を学ぶにふさわしい能力・適性等を判断します。  
出題内容は以下のとおりとします

学 科	科 目 名	出 題 内 容	注 意 事 項
システム工学科	記述解答問題	ものごとを科学的視点でとらえ、筋道をたてて論理的に分析し、その結果を総合的に判断して表現する能力を問います。具体的には、  ○数学的思考を問う論述問題、  ○図表を読み取る論述問題、  ○物理的思考を問う論述問題  が出題されます。	○数学的思考を問う論述問題、 ○図表を読み取る論述問題、 ○物理的思考を問う論述問題のうち、2 題を選択して解答します（選択は問題を見てから決めることができます）。

# [ 4 ] 観 光 学 部

## 1. 入試方法等

入学者の選抜は、大学入試センター試験ならびに本学が実施する個別学力検査および調査書等の出願書類により総合して行います。

なお、本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目を全科目受験しなければ、個別学力検査を受験することはできません。

また、個別学力検査等において、本学が指定する教科・科目等を全教科受験しない場合、出願時に届け出た個別試験科目以外で受験した場合は、合格者選考の対象にはなりません。

### 大学入試センター試験受験に際しての注意事項

本学における平成 28 年度入学者選抜における大学入試センター試験の取扱いは、下記のとおりですのでご注意ください。

#### ○英語の受験について

大学入試センター試験で英語を受験する方は、筆記試験とリスニング試験の両方を受験しなければなりません。一方でも受験しなかった場合は、本学が行う個別試験を受験する資格がなくなります（重度聴覚障害者でリスニング試験免除者を除きます）。

2. 入学試験実施教科・科目等

学部・学科等名及び入学定員等 〔平成27年度志願倍率〕	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の 利用教科・科目名		個別学力検査等 2段階 検査	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							特別の 入試方法 等	
		教科	科目名等		試験の区分	国語	地歴 公民	数学	理科	外国語	総合 問題		小論文 実技
観光学科 〔5.7〕 120人 前期 55 後期 35 その他 30	前期 2月25日	国語	国語総合 教I・教II・教A・教B } から1 コミュニケーション・英語II・ コミュニケーション・英語I	センター試験	200	*100 *100	200	100	200			900	推薦 社会人 AO 私費外国 人留学生 追加合格
		地歴 公民	日B, 地理B 倫, 政経, 倫・政経 } から2 教I, 教II・教B, 簿, 情報から1 教II, 教I・教Aから1 物基, 化基, 生基, 地基から2 (又は物, 化, 生, 地から1) 英 (リスニングを含む), 独, 仏, 中, 韓から1 (6教科8科目又は5教科8科目)	個別学力検査	*300		*300					600	
	後期 3月12日	国語	その他 小論文 ・基本的な国語力を試します。 ・課題文を与えて読解力, 表現力を問います。	計	200 *300	*100 *100	200 *300	100	200 *300			1500	
		地歴 公民	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } または2 教I, 教II・教Aから1 教II, 教I・教B, 簿, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 (又は物, 化, 生, 地から1) 英 (リスニングを含む), 独, 仏, 中, 韓から1 (3教科4科目又は2教科3科目)	センター試験	*100	*100 *100	*100 *100	*100	*100 *100			600	
		理科		個別学力検査						400		400	
				計	*100	*100 *100	*100 *100	*100	*100 *100	400	400	1000	

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- ①選択教科・科目のうち、必要教科・科目数を超過している場合には、高得点の教科・科目を選択します。ただし、地歴および公民から1科目を利用する場合は、得点にかかわらず、第1解答科目を採用します。
- ②「簿記・会計」「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校(中等教育学校の後期課程)の修了者(見込)者に限ります。
- ③前期日程を受験する者は、地歴および公民の2科目を選択する際、【世B, 日B, 地理B】から必ず1科目以上を選択すること。
- ④後期日程を受験する者は、地歴および公民から2科目を選択し、他の教科から1科目の計3科目を選択すること。
- ⑤後期日程を受験する者は、理科で基礎を付した科目を選択する場合は、【教I, 教II, 教Aから1】および【教II, 教B, 簿, 情報から1】から1科目ずつの計2科目を選択することができます。
- ⑥外国語の「英語」については、筆記試験(200点)とリスニングテスト(50点)の合計得点を200点に換算したものを得点(素点)とします。
- ⑦地歴または公民で2科目を選択する場合には、同一名称のA・B出題科目、同一名称を含む出題科目同士との組み合わせはできません。
- ⑧後期日程において、地歴および公民の中から第2解答科目の得点を採用する場合は、第1解答科目の得点を採用する場合があります。
- ⑨旧教育課程履修者に限り、数学の「教II, 教II・教B, 簿, 情報から1」の選択科目として、経過措置科目である「工業数理基礎」を選択することもできます。
- ⑩ただし、「工業数理基礎」を選択解答できる者は、高等学校(中等教育学校の後期課程)を含まず。において、この科目を履修した者(大学入学資格検定試験合格者で、これらの科目に合格した者)を含みます。)

【個別学力検査等】欄

- ①前期日程の「国語総合」については、近代以降の文章、古典(古文、漢文)から出題します。
- ②数学I, 数学II, 数学Aは全範囲を出題範囲とします。数学Bについては、「数列」, 「ベクトル」を出題範囲とします。
- ③「英語表現I」については、リスニングを出題範囲から除きます。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

配点に\*印を付してある教科は、選択教科を表します。

## 〔5〕平成28年度大学入学者選抜（大学入試センター試験） における旧教育課程履修者に対する経過措置

高等学校学習指導要領の改訂に伴う平成28年度大学入学者選抜（大学入試センター試験）における旧教育課程履修者に対する経過措置については、下記のとおりとする。

なお本経過措置は平成28年度限りの措置とする。

（科目選択の方法）

「工業数理基礎」は、数学②において出題する「数学Ⅱ」、「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」及び「情報関係基礎」の4科目と合わせ、計5科目のうちから1科目を選択解答する。

※「工業数理基礎」を選択解答できる者は、高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）において、これらの科目を履修した者（大学入学資格検定試験合格者で、これらの科目に合格した者を含む。）及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込み）者に限る。

※「工業数理基礎」は、旧教育課程履修者のための出題科目です。新教育課程履修者は「工業数理基礎」を選択解答できないので注意すること。

（注）

新教育課程履修者	<p>① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。以下同じ。）に平成25年4月に入学し、平成28年3月卒業見込みの者</p> <p>② 中等教育学校の後期課程に平成25年4月に進級し、平成28年3月卒業見込みの者</p>
旧教育課程履修者	<p>上記以外の者</p> <p>* 高等学校等卒業者、高等学校卒業程度認定試験合格者又は合格見込者、大学入学資格検定合格者、高等専門学校第3学年修了者又は修了見込者、外国の学校等修了者又は修了見込者、在外教育施設修了者又は修了見込者、及び高等学校等を平成28年3月卒業見込みであるが、入学は平成25年3月以前の者など、上記に該当しない者</p>

※「新教育課程」とは、平成25年4月1日から適用された高等学校学習指導要領（平成21年文部科学省告示第34号）に基づく教育課程及び平成21年3月9日文部科学省告示第38号の特例により定められた教育課程をいい、「旧教育課程」とは、従前の高等学校学習指導要領に基づく教育課程をいう。



[6]個別学力検査等の試験場および試験日時等

1. 試験場

和歌山大学 栄谷キャンパス（和歌山市栄谷930）

2. 前期日程

◎ 試験期日：平成28年2月25日（木）

学 部	教科・科目等の試験時間		
教 育 学 部	地理歴史	理 科	10：00 ～ 11：30
	外 国 語		12：40 ～ 14：10
	国 語	数 学	15：00 ～ 16：30
	実 技 検 査		10：00 ～ 16：20
経 済 学 部	外 国 語		12：40 ～ 14：10
	数 学		15：00 ～ 16：30
システム工学部	外 国 語		12：40 ～ 14：10
	数 学		15：00 ～ 17：00
観 光 学 部	外 国 語		12：40 ～ 14：10
	国 語	数 学	15：00 ～ 16：30

3. 後期日程

◎ 試験期日：平成28年3月12日（土）

学 部	教科・科目等の試験時間	
教 育 学 部	小 論 文	10：00 ～ 12：00
経 済 学 部	小 論 文	10：00 ～ 11：30
システム工学部	総 合 問 題	10：00 ～ 12：00
観 光 学 部	小 論 文	10：00 ～ 11：30

4. 試験場案内

本冊子の裏表紙に本学への交通アクセスを掲載していますので、参照してください。

試験当日のバスは、JR 和歌山駅前、南海和歌山市駅前、南海和歌山大学前前から定期便の他に臨時便が運行されます。混雑が予想されますので余裕を持って乗車してください。

なお、試験当日の臨時バス等の時刻表は、2月中旬頃に本学ウェブサイト「入試情報」に掲載を予定しています。

## IX 障害を有する入学志願者の事前相談について

障害を有する入学志願者〔学校教育法施行令第22条の3に定める障害の程度〕は、受験上および修学上特別な配慮を必要とすることがありますので、出願に先立ち、下記要領により申し出てください。また、負傷等により特別な配慮等を必要とする場合も同様に申し出てください。

なお、申請内容によっては、本学の試験日までに対応できず、特別な配慮が講じられないこともありますので、なるべく早く申し出てください。

### 1. 相談期日

原則として、平成27年12月14日（月）までに申し出てください。ただし、例に示すような特別な準備を必要としない程度の障害である場合は、平成28年1月20日（水）までに申し出てください。

例）＊点字による出題を要しない程度の障害

＊補聴器の使用により、聴き取りに支障のない程度の障害

＊車椅子等の使用により、移動に支障のない程度の障害

### 2. 相談手続

特別な配慮を希望する者は、下記の問い合わせ先に連絡をしてください。

問い合わせの後、本学より『事前相談申請書』（所定様式）を送付しますので、健康診断書（写でも可）等必要な書類を添付し、下記の問い合わせ先まで郵送または持参してください。なお、持参の場合は、保護者等代理人でも結構です。

『事前相談申請書』受理後、志願者またはその立場を代弁し得る保護者や出身学校関係者等との面談等を行うことがあります。面談等の日時は追って連絡します。

### 3. 問い合わせ先

〒640-8510 和歌山市栄谷930番地

和歌山大学入試課

TEL 073-457-7116

〈参考：学校教育法施行令第22条の3〉

区 分	障 害 の 程 度
視覚障害者	両眼の視力がおおむね 0.3 未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のものうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
聴覚障害者	両耳の聴力レベルがおおむね 60 デシベル以上のものうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
肢体不自由者	1. 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの 2. 肢体不自由の状態が前号に掲げる程度に達しないものうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病弱者	1. 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの 2. 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの
その他（発達障害を含む）	上記の区分以外の者で特別な配慮を必要とする程度のもの

## X 合格の発表等について

### 1. 合格の発表

(1) 合格の発表は、次のとおり、合格者の受験番号を掲示します。

試験区分	日 時	掲 示 場 所
前期日程	平成28年3月6日(日) 午前9時	和歌山大学構内掲示板
後期日程	平成28年3月21日(月) 午前9時	

(2) 合格者には、合格発表日の午前中に合格通知書および入学手続関係書類等を発送します。

(3) 合格者については、国公立大学の分離分割方式による合格および追加合格決定業務を円滑に行うため、氏名および受験番号ならびに入学手続等に関する個人情報を、独立行政法人大学入試センターおよび併願先の国公立大学へ送付しますのでご了承ください。

(4) インターネットによる合格発表を下記のとおり行います。

和歌山大学ウェブサイト URL : <http://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>

掲載日時 : [前期日程] 3月6日(日) 正午～3月10日(木) 正午

[後期日程] 3月21日(月) 正午～3月25日(金) 正午

これは、本学が情報提供の一環として行うものであり、公式の合格発表は上記(1)および(2)に記載しているとおりです。また、当日は多数のアクセスにより、応答が遅くなったり、回線等の障害が発生し閲覧が出来なくなることも予想されますのでご留意願います。

(5) 電話等による選考結果についての問い合わせには一切応じません。

(6) 試験当日、JR和歌山駅、南海和歌山市駅及び南海和歌山大学前駅付近や大学周辺で行われることのある合否電報受付等(有料)については、本学は一切関与していませんので、ご注意ください。

### 2. 欠員補充の方法(追加合格)

(1) 入学手続完了者が入学定員(募集人員)に満たない場合は、前期日程または後期日程のいずれかの選抜の不合格者の中から、合格者の追加を行うことがあります。

(2) 追加合格の通知は、平成28年3月28日(月)から3月31日(木)までの間に、直接、受験者本人に対してのみ行います。

(3) 出願後、入学願書に記載した「追加合格連絡先」に変更がある場合は、すみやかに和歌山大学入試課に届け出てください。

(4) 受験者本人の不在や「追加合格連絡先」変更の届出がないなどの理由により、追加合格の通知ができなかった場合は、追加合格者としての取り扱いが無かったものとする場合があります。

(5) 追加合格の実施について、テレホンサービスでも情報を提供します。

サービス期間 : 平成28年3月28日(月)午前9時～3月31日(木)

電 話 番 号 : 073-457-7971 (通話料金は有料)

### 3. 欠員補充の第2次募集

追加合格によっても、なお入学定員に欠員が生じた際には、新たに欠員補充の第2次募集を行うことがあります。なお、欠員補充の第2次募集は、平成28年3月末に公表します。

## XI 入学手続

入学手続方法は、合格通知と共に送付される「入学手続案内」でお知らせします。

なお、下記の入学手続期間内に入学手続を行わなかった場合は、本学への入学を辞退したものと取り扱います。

### 1. 入学手続期間・場所

	入学手続期間	入学手続場所
前期日程合格者	平成28年3月14日(月)および3月15日(火) 午前9時30分から午後5時00分まで	和歌山大学
後期日程合格者	平成28年3月26日(土)および3月27日(日) 午前9時30分から午後5時00分まで	

### 2. 入学手続に必要なもの

大学入試センター試験受験票	入学手続完了後、押印の上返却します。
合格通知書	本人との照合の上、返却します。
入学料	282,000 円 ※上記記載の金額は、平成27年度のもので、平成28年度入学者の納付金額については、決定次第、別途お知らせします。 (注) 入学料は本学所定の振込依頼書により、入学手続時までに納入してください。これについては、合格者に送付する入学手続案内で納入方法の詳細をお知らせします。
授業料	前期分 267,900 円 年額 535,800 円 ※上記記載の金額は、平成27年度のもので、平成28年度入学者の納付金額については、決定次第、別途お知らせします。 ※在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。 (注) 入学手続案内で、納入方法の詳細をお知らせします。

### 3. 入学にあたっての留意事項

- (1) 合格者で、本学へ入学できる者は、他の国公立大学に「入学手続」をしていない者に限ります。
- (2) 合格者は、入学手続期間内に「入学手続」を完了しないと、「入学辞退者」として取り扱います。
- (3) 本学の「入学手続」を完了した者が、本学への入学を取り消して、他の国公立大学に「入学手続」をすることはできません。

## XII 入試情報の開示

本学では、平成 28 年度一般入試における主な入試情報を下記のとおり開示します。

- (1) 志願者数・受験者数・合格者数・追加合格者数・入学者数
- (2) 試験問題および正解・解答例……平成 28 年 4 月以降に開示します。
- (3) 合格最高・最低点および合格者の平均点……募集単位ごとに、合格者の最高点、最低点、平均点を大学入試センター試験と個別学力検査の総合点で平成 28 年 4 月以降に開示します。ただし、募集人員または合格者のいずれかが 10 人以下の入試については開示しません。
- (4) 試験成績……受験者本人からの請求（遠隔地の場合、郵送可）により、以下のとおり開示します。
  - ① 開示期間、曜日、時間：平成 28 年 5 月から 6 月の 2 か月間。月曜日から水曜日（祝祭日を除く）の 9 時～17 時。
  - ② 開示内容：大学入試センター試験の合計点および個別学力検査の科目別の得点および募集単位ごとの総合点による順位を開示します。ただし、順位は、募集人員または合格者のいずれかが 10 人以下の入試については開示しません。
  - ③ 開示方法：「入試情報開示通知書」を交付します。
  - ④ 提出書類：「試験成績開示申請書」  
なお、「本学の受験票」と「大学入試センター試験の受験票」により本人確認を行いますので、上記の受験票 2 点を紛失しないように注意してください。
  - ⑤ 開示場所：和歌山大学入試課
- (5) 調査書……受験者本人からの請求により成績評価および出欠の記録についてのみ開示します。(閲覧のみ)  
開示期間、必要書類および開示場所等については、試験成績の開示に準じます。

### ◎入試情報の問い合わせ先

和歌山大学入試課

〒640-8510 和歌山市栄谷930番地

TEL 073-457-7116 (直通)

E-mail nyushika@center.wakayama-u.ac.jp

<http://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>にて詳細を公表しています。

### XIII 個人情報の取り扱いについて

個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人和歌山大学における個人情報の保護に関する規程」に基づいて取り扱います。

- 1 出願に当って知り得た氏名、住所、成績その他の個人情報及び入学者選抜にて得られた、試験成績等の個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格者発表、③入学手続業務、④入学後の教育指導等及び今後の入学者選抜方法の検討資料等の作成、⑤その他、本学における諸調査・研究等のために利用します。

また、入学者のみ⑥教務関係（学籍、修学指導等）、⑦学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請等）、⑧授業料等徴収関係の業務を行うために利用します。

なお、上記のように個人情報を利用する場合は、適正な管理に努めます。

- 2 上記1の各種業務での利用にあたっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下「受託業者」という。）において行うことがあります。

については、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、知り得た個人情報の全部または一部を提供します。

- 3 国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務円滑に行うため、氏名、本学の受験番号、大学入試センター試験の受験番号、可否及び入学手続に関する個人情報を、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送付します。

### XIV 宿泊の案内

受験の際、宿泊を希望する受験者は、下記の旅行業者等が斡旋しておりますので、申し込んでください。

旅行業者名等	申込み先等
和歌山大学消費生活協同組合 TEL:073-452-8497 【宿泊の申込受付・手配】 <b>(株)大学生協事業センター 京都支店</b> TEL:075-711-7502	「和大生のための受験生・新入生応援サイト」からオンラインにて宿泊のお申し込みが可能です。 ※申込方法・受付期間等詳細については、下記サイトをご覧ください。 受験生・新入生応援サイト URL <a href="http://wu.hanshin.coop/startbook/index.html">http://wu.hanshin.coop/startbook/index.html</a> 和大生協 URL <a href="http://wu.hanshin.coop/">http://wu.hanshin.coop/</a>
和歌山県旅館ホテル生活衛生同業組合	〒640-8241 和歌山市雑賀屋町東ノ丁 64 TEL 073-431-1366 FAX 073-431-1367 電話または FAX にてお問い合わせください。同組合より「受験宿泊案内」が送付されます。
近畿日本ツーリスト (株) 和歌山支店	TEL 073-431-7221
(株) J T B 西日本 和歌山支店	TEL 073-432-5860

### [1] 学部の紹介

#### ◎ 教育学部

教育学部は、その前身を明治期に発足した師範学校におく、本学でもっとも古い歴史をもった学部です。昭和24年(1949)新制和歌山大学では学芸学部、その後、教育学部と学部名称は変わりますが、その間一貫して教員養成を通じて地域社会に大きな貢献をしてきました。

平成元年(1989)に教員養成以外にも視野を広げた、教員免許取得を目的としない新課程を設置し、組織や名称を変更しながら今日まで継承してきましたが、平成27年(2015年)入学者をもって終了し、学校教育教員養成課程に一本化しました。これは、少子化や学力低下、いじめや不登校など、深刻化し、複雑化していく諸問題に対応するため、教員養成に学部の力を集約させることを狙った改革です。これまで新課程が担った、学校の外への視点や幅広い教養を教員養成課程に取り込みつつ、これらの問題解決にあたることを考えています。

この課程には初等教育コース、中等教育コース、特別支援教育コースの3つのコースをおきます。このようにキャリアパスを明確にすることで、自分のめざすべき進路にまっすぐに向かうことができるようにしました。もっとも、それぞれのコースは相互に関連しているので、それらをつなぐ視点も大切にしています。具体的には幼・小連携、小・中連携を視野に入れ、さらに特別支援教育とつなぐなど、複数免許の取得も可能です。

本学部が力を入れていることの一つに、実践力の向上があります。これは単に「即戦力の養成」というのとは少し違います。実際、多様な学校現場ですぐに役に立つ人材になるのは至難です。大切なことは、困難な教育現場にあって、日々悩みながら同僚たちと協働して子どもの支援に向かう覚悟と姿勢を準備することです。

そのためには、自主的で多様な教育経験が必要になります。教育実習はその最大のもですが、それ以外にへき地複式実習のようなオプションの実習、経験豊かな現場教員の授業、さらには教育ボランティアや教育系のサークルなど課外の活動も多く用意されています。これらを通じて、悩みながら成長し続ける教員になっていけるよう支援しています。

#### 初等教育コース

このコースは児童の発達や教科のつながりなどを総合的に捉え、小中連携の視野を持った小学校教員の養成をめざします。子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、教育に関するさまざまな科学・研究分野を学びます。さらに、学校教育の基本的課題のみならず今日の学校内外で多発する複雑で深刻な教育問題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

このコースでは初等(小学校)の専門性を高めるために「初等エキスパート科目」を設定し、教職分野の力や小学校教科の指導法および教科内容の力をつけます。また小中連携を意識した「小中連携科目」の履修により校種間のつながりを意識した学びができます。このコースでは卒業要件として、[小学校教員免許1種]の取得が課せられます。本人の希望により幼稚園教員免許や中学校教員免許、高等学校教員免許、特別支援学校教員免許の取得が可能です。卒業後の進路としては、小学校を中心として、幼・中・高・特別支援学校の教員のほかに、心理職、児童施設指導員、障害者施設指導員、公務員、大学院進学などがあります。

#### 中等教育コース

教科(分野)の専門性を深めつつ、中学校・高等学校教員の養成をめざします。子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、学校における各教科に関する幅広く深い知識と専門的技量を修得します。さらに、文化の継承・発展という教育の基本的課題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

このコースでは教科の専門性を高めるために「中等エキスパート科目」を設定し、教職分野の力や中学校・高等学校教科の指導法および教科内容の力をつけます。このコースでは卒業要件として、[中学校教員免許1種]の取得が課せられます。本人の希望により小学校教員免許、高等学校教員免許、特別支援学校教員免許の取得が可能です。卒業後の進路としては、中学校・高等学校を中心として、小・特別支援学校の教員のほかに、諸種の教育関係職、公務員、大学院進学などがあります。

### 特別支援教育コース

このコースでは、特別支援教育に関する専門的な知識と技能を修得します。通常の教師としての資質を高めながら、学習や発達に困難のある児童生徒や、心身に障害を有する児童生徒など、教育上特別なニーズを有する子どもの指導、支援に関する高度な専門性を身につけることが目標です。

授業では、特別支援教育に関する教育学、心理学、指導法、医療、福祉について、系統的な知識や技術を学ぶとともに、教育の時代的な変化の背景にある思潮や、教育の原理、歴史についても学習し、表面的スキルの修得に終わらない深い学びを目指します。さらに子どもと接する機会を多く設け、体験を通して学ぶことができる授業を展開しています。

このコースの卒業要件として、[小学校教員免許1種]または[中学校教員免許1種]の取得に加えて、[特別支援学校教員免許1種]を取得することになります。

卒業後の進路は、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員のほかに、福祉施設職員、公務員、一般企業、大学院進学などがあります。

## ◎ 経済学部

本学部は、1922年（大正11年）に創立された旧制和歌山高等商業学校以来の伝統を受け継ぎ、100年近くにわたって社会に多くの優れた人材を送り出してきました。この間、時代と社会の要請にこたえながら、経済社会の理解に不可欠な学問分野である経済学、経営学、会計学、情報学、法学の教員を揃え、論理的思考力、専門知識、実務能力、幅広い教養を有する人材の養成に努めてきました。卒業後の進路は、金融・製造・流通・情報・公務など多様な業種にわたり、昨今の厳しい就職状況下でも就職率は高い水準を保っています。また、本学大学院経済学研究科修士課程に進学する学生もいます。優秀な成績を修めた学生は、3年次修了時点で大学院に進学できる制度が設けられています。

近年の多様化・複雑化する社会においては、複数の学問分野にまたがる専門知識を活用し、一人ひとりが他の人と協力しながら問題を発見・解決する能力が求められています。そのような能力・資質を身につけるために、本学部のカリキュラムは、経済学、経営学、会計学、情報学、法学の各学問領域での体系的な学修に加え、これらのうちのいくつかの学問領域の学修を組み合わせています。その上で、卒業後の進路において必要となる専門知識や実務能力などを考慮して横断的な学問領域における授業科目を体系化しています。学生は初年時から将来の自分の姿を思い描きながら主体的・計画的に学修を進めます。このカリキュラムでは、学修目標とそれによって目指せる可能性のある代表的な進路を想定し、次の「プログラム」を設けています。

### 「グローバル・ビジネス&エコノミー」

グローバルな視点から経済領域・経営領域で種々の課題に対応できる能力を身に付け、グローバル企業、国際機関、NPO・NGOなどにおいて中心的な役割を担える人材となることを目指します。

### 「企業分析・評価」

企業の資金調達・運用から事業譲渡など、銀行の融資審査や証券会社の引受、会計事務所のコンサルティング業務、一般企業のファイナンス関連業務などで企業価値の分析および評価を行うことができる人材となることを目指します。



#### 「ビジネスデザイン」

新たな視点から事業，企業の再活性化に取り組める能力を身に付け，企業の企画部門などにおいて，高い企画力を持って組織変革や業務改善を担える人材や，起業家などを目指します。

#### 「企業会計・税法」

会計学及び税法の視点からの実務能力を身に付け，企業の経理・財務部門において，会計・法制度の知識をもとに組織活性化の支援に取り組む人材や，税理士，公認会計士，不動産鑑定士，国家・地方公務員などを目指します。

#### 「地域公共政策・公益事業」

地域社会における課題解決能力を身に付け，地域の活性化を支援する国家・地方公務員や，公益性の高い事業主体の職員などを目指します。

#### 「サステイナブル・エコノミー」

経済における持続可能性を実現できる多様性・柔軟性を有する能力を身に付け，企業のCSR関連部門，社会的企業，環境NGO・NPOなどにおいて，多様な利害関係者と各組織の橋渡しとなれる人材となることを目指します。

### ◎ システム工学部

近年，科学技術の急速な発展に伴い，さまざまな工業技術が高度化・専門化してきました。また，一方で，エネルギー，環境，情報のようにグローバルに変化する課題から地域の産業の再生や振興といった課題にも対処することが要求されるようになってきました。前者は各専門分野の分化，後者は専門分野の統合・総合化を示唆しています。

このような状況の下にある産業界や社会の要請により柔軟に対応できるよう，システム工学部では平成27年，これまでの5学科（情報通信システム学科，光メカトロニクス学科，精密物質学科，環境システム学科，デザイン情報学科）を1学科（システム工学科）へと改組をおこないました。システム工学科には，10教育研究領域（メジャー）を設定し，学生自らが将来を志向し，自らの興味や資質に見合った領域を主体的に選択することができます。具体的には，2つのメジャーを選択することによってコースを構成し，学科に相当する専門分野を学ぶことができます。これによりこれまでの学科の枠組みに固執することなく，広範かつ柔軟な専門性をもった応用力・適用力が養われることが期待されます。以下に，各メジャーの教育目的とともにいくつかのコースを示します。

#### ・メジャー：機械電子制御

機械電子制御メジャーでは，幅広い視点から論理的思考をもって問題の解決にあたることのできる技術者をめざして，機械工学，応用数学などの素養を身につけた後，制御工学，ロボット工学などのシステム論を用いた設計，運用に関する専門技術について学びます。

#### ・メジャー：電子計測

電子計測メジャーでは，人々の生活や産業を支える情報のセンシングや処理システムを創造できる技術者の育成をめざして，電気電子工学や光工学の基礎と，計測デバイスや計測情報処理などの要素技術，さらにこれらを統合した計測システムについて学びます。

#### ・メジャー：応用物理学

応用物理学メジャーでは，物質におけるナノスケールの世界を探求し，新しい材料やデバイスの開発に対する社会のニーズに柔軟に対応できる能力を身につけられるように，物性物理学，材料科学，電子工学にわたる専門分野を学びます。

- ・メジャー：化学

化学メジャーでは、化学に関わる基本的法則を学んで物質に関する理解の基盤を作った後、ナノレベルの世界における化学現象や法則、原子・電子レベルでの相互作用の発現や、新たな機能性物質の設計・開発などの専門技術について学びます。
- ・メジャー：知能情報学

知能情報学メジャーでは、人間とコンピュータの新たな関係が再構築される時代において、科学者や技術者として活躍できる人材を育成するための専門教育を行い、人工知能やロボット、視覚情報処理、コンピュータグラフィクスなどについて学びます。
- ・メジャー：ネットワーク情報学

ネットワーク情報学メジャーでは、インターネット上に構築される、新たな情報ネットワーク社会において、科学者や技術者として活躍できる人材を育成するための専門教育を行い、モバイル通信やWebシステム、ビッグデータの解析などについて学びます。
- ・メジャー：環境科学

環境科学メジャーでは、環境を守り、育て、次世代に継承する人材の育成をめざして、環境破壊を未然に防ぐ、自然災害から命や暮らしを守る、地球温暖化に対応する、美しい風景を創造するなど、持続可能な社会の実現に貢献するための知識と技能を学びます。
- ・メジャー：環境デザイン

環境デザインメジャーでは、人と自然のよりよい関係を具現化できる人材の育成をめざして、自然から生活空間にいたる環境を一体として捉え、自然再生、防災緑化、自然エネルギーなど自然と調和する技術、景観保全やまちづくり、建築設計などの計画技術について学びます。
- ・メジャー：メディアデザイン

メディアデザインメジャーでは、メディアデザインと情報の双方の知識を持つ人材の育成をめざして、情報技術としてのサウンドやビジュアルのデザイン、人間工学に基づくインタフェースデザイン、さらにその基礎となるデザイン制作や企画方法について学びます。
- ・メジャー：社会情報学

社会情報学メジャーでは、人や社会を豊かにする情報システムを企画・設計する能力を身につけます。情報技術に支えられた社会の仕組みを知り、新しい情報システムの可能性を探求するために、ソフトウェア開発や高度なコミュニケーションについて学びます。

代表的なコースとそれを構成するメジャー，期待される就職先

コース名	メジャー名	期待される就職先
ロボティクス	機械電子制御 電子計測	機械・電機，自動車，精密機械
ナノテクノロジー	応用物理学 化学	半導体・電子部品，精密機器，化学・医薬品・化粧品，素材
コンピュータサイエンス	知能情報学 ネットワーク情報学	情報・通信，ITサービス，電機
デザインシステム	社会情報学 メディアデザイン	情報・通信，ITサービス，出版・印刷
環境システム	環境デザイン 環境科学	公務員（土木，建築，造園），建築・住宅，環境プラント

環境化学	環境科学 化学	環境職公務員，環境測量士
電気電子工学	応用物理学 電子計測	電気電子メーカー，精密機械
知能機械システム	機械電子制御 知能情報学	自動車，電機，精密機械，生産機械，医療機器， 情報通信産業，ゲーム・アミューズメント
ネットワーク社会システム	ネットワーク情報学 社会情報学	情報通信，サービス産業，ゲーム・アミューズ メント

○システム工学部では，スーパーサイエンスティーチャープログラムを設けます。

これはシステム工学部卒業後，本学教育学研究科に進学し高校の理科の教員免許の取得を目指すコースです。

## ◎ 観光学部

21世紀は「観光の時代」。世界のあらゆる国や地域で最も有望な成長分野として注目されるのが観光です。日本においても観光は戦略産業と位置づけられ，官民一体での「観光立国」実現に向けた政策や取組が加速するなか，観光産業や行政の現場と密接に連携しながら，新しい観光学の創造および観光を支えるに相応しい豊かな教養と専門性，さらにはグローバル時代に対応したハイレベルな国際的・学際的視点を有する観光人材の輩出がますます期待されています。和歌山大学観光学部は，観光教育研究における日本の，そしてアジアの拠点として，これらの人材養成に応えるべくさらに進化します。

### 観光学部の特色

- ① 観光学は人間の生活・文化に関わるあらゆる分野を総合した学問であることから，人文・社会科学から自然科学までの幅広い分野を融合的・横断的に学ぶことのできる充実したカリキュラムを用意しています。
- ② 最先端の観光理論を学ぶことはもちろん，教員と学生が自治体と連携して地域課題の解決に取り組むプログラムや海外の連携大学等と共同で取り組むエリアスタディ等の機会を通じて，社会の各方面から即戦力として期待される実践力が身につきます。
- ③ ハイレベルな観光人材に相応しい教養の醸成を重視し「観光プロデュース論」「日本文化演習」などユニークな実践科目を配置するほか，グローバル・プログラムの導入を通じて国際化時代における言語面でのバリアフリー化を進めます。

## [2] 学生生活

### (1) 入学時の諸経費

入学当初には入学料、授業料以外に次のとおり諸経費が必要です。

(注) 金額は平成 27 年度のもので、平成 28 年度入学者の納付金額は、決定次第、別途お知らせします。

諸会費等経費	教育学部	経済学部	システム工学部	観光学部
学会費・同窓会費等	35,000 円	52,000 円	32,000 円	52,000 円
各種学生団体諸会費	20,500 円	20,500 円	20,500 円	20,500 円
合 計	55,500 円	72,500 円	52,500 円	72,500 円

### (2) 入学料免除の制度

本学では、次の要件にいずれかに該当する場合は、本人の申請に基づき選考の上、入学料の全額または半額を免除する制度があります。

- ① 入学前一年以内において本人の学資を主として負担する者（学資負担者）が死亡した場合
- ② 入学前一年以内において本人若しくは学資負担者が風水害の災害を受けた場合

### (3) 入学料徴収猶予の制度

本学では、次の要件にいずれかに該当する場合は、本人の申請に基づき選考の上、平成 28 年 7 月末日（入学年度の 7 月末日が日曜日にあたる時は前々日まで、土曜日にあたる時は前日まで）を限度として入学料の納入を猶予する制度があります。

- ① 入学前一年以内において本人の学資を主として負担する者（学資負担者）が死亡した場合
- ② 入学前一年以内において本人若しくは学資負担者が風水害の災害を受けた場合
- ③ 経済的理由により入学料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合

### (4) 授業料免除の制度

本学では、次の要件にいずれかに該当する場合は、本人の申請に基づき選考の上、授業料の全額または半額を免除する制度があります。

- ① 入学前一年以内において本人の学資を主として負担する者（学資負担者）が死亡した場合
- ② 入学前一年以内において本人若しくは学資負担者が風水害の災害を受けた場合
- ③ 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合

### (5) 奨学金制度

#### ① 日本学生支援機構の奨学金

(申込資格)

学業・人物ともに優秀で、経済的理由により修業が困難である者。

(奨学生の決定)

本学が人物・健康・学力・家計の申込基準を満たしている奨学金申込者の中から選考のうえ、日本学生支援機構に推薦します。同機構では審査のうえ、採用を決定します。基準を満たしていても、予算の関係で採用されない場合があります。

(奨学金の種類)

- 〈第一種奨学金（無利子）〉……貸与月額 自宅通学 30,000 円, 45,000 円から選択  
自宅外通学 30,000 円, 51,000 円から選択
- 〈第二種奨学金（有利子）〉……貸与月額 30,000 円, 50,000 円, 80,000 円, 100,000 円,  
120,000 円から選択

(注) 貸与月額については、平成 27 年度実績であり、変更されることがあります。

#### ② 地方公共団体等の奨学金

日本学生支援機構の奨学金の他に、地方公共団体や各種団体等が扱っている育英奨学金制度があります。これらの募集は、ほとんどが 4～5 月に集中しており、学生センターの掲示板に随時掲示しています。この他に、大学に直接募集のないものもありますので、各団体や出身の都道府県に各自問い合わせてください。

### ③ 家計急変奨学金

本学では、学資負担者の家計急変（失職、破産、倒産、病気、死亡もしくは地震・風水害の被害等）により修学を継続することが経済的に困難となった学生の学費・生活費を援助することを目的とした奨学金制度があります。

貸与額：無利子貸与とし、一時金10万円、20万円、30万円より申請者が選択する。  
返還期間：貸与された翌月から卒業後3年以内。

## (6) 学生傷害保険等

### ① 学生教育研究災害傷害保険（学研災）

学研災は、学生が正課中、学校行事中、通学中、教育・研究のために大学施設内にいる間及び課外活動中等に不慮の事故にあい、傷害を受けたり、あるいはそれらが原因で後遺障害を負ったり、死亡した場合に、当該学生やその家族に保険金が支払われる全国的規模の補償制度です。

(注) 本学が学生全員の学研災の保険料を負担し、一括加入していますので、個々に加入する必要はありません。

### ② 学研災付帯賠償責任保険（学研賠）【任意加入】

学研賠は、日本国内外において、学生が正課中、学校行事中、課外活動（インターンシップ、介護体験、教育実習、保育実習、ボランティア活動）中及びその往復等で、他人にケガを負わせたり、他人の財物を損壊したことにより生ずる法律上の損害賠償を補償する制度です。

### ③ 学研災付帯学生生活総合保険（学総）【任意加入】

学総は、学研災及び学研賠では補償が不足すると思われる場合に、学研災に加えて任意に加入できる保険で、学研災や学研賠では補償されない病気や日常生活でのケガ等についても補償されます。この保険に加入すれば、賠償責任を負った場合の補償を含んでいるため、学研賠に加入する必要はありません。

## (7) 学生寮

本学には、次のとおり学生寮が設置されています。

区 分	所 在 地	定 員	1 室 定 員	新入生入寮 可 能 人 員	備 考
学生寮(男子)	和歌山市栄谷 930 番地 (大学構内)	120 人	1 人	約 30 人	鉄筋コンクリ ート 5 階建
学生寮(女子)		50 人	1 人	約 10 人	

平成 27 年度の寄宿料は、月額 4,300 円となっています。なお、寄宿料は、和歌山大学学生寮管理運営規則の改正により変更することがあります。

寄宿料以外に、寮生活に伴う電気代、ガス代、水道料等の負担があります。

## (8) 下宿・アパート

市街地及び大学周辺のアパート・マンション等の斡旋は、和歌山大学消費生活協同組合（073-456-4155）で行っていますので、各自問い合わせてください。なお、平均的な物件の家賃は月額 35,000 円です。

## (9) 学生生活に関する問い合わせ先

問い合わせ事項	問い合わせ先
入学料免除、入学料徴収猶予、授業料免除	学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7122
奨学金	学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7128
学生傷害保険等	学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7123
学生寮	学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7132
その他	学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7121

### [3] 過去3年間の入学者選抜状況

#### 平成27年度選抜状況

学部	学科・課程	日程等	募集人員	志願者			受験者			合格者			入学者		
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
教 育 学 部	学校教育教員養成課程	前期	96	206	153	359	201	143	344	67	36	103	63	35	98
		後期	34	172	133	305	69	66	135	21	22	43	17	16	33
		推薦	15	11	31	42	11	31	42	4	11	15	4	11	15
		計	145	389	317	706	281	240	521	92	69	161	84	62	146
教 育 学 部	総合教育課程	前期	15	31	26	57	26	22	48	15	5	20	13	4	17
		推薦	5	10	10	20	10	10	20	1	4	5	1	4	5
		計	20	41	36	77	36	32	68	16	9	25	14	8	22
教育学部計			165	430	353	783	317	272	589	108	78	186	98	70	168
経 済 学 部	経済学科 ビジネス・マネジメント学科 市場環境学科	前期	200	357	173	530	332	157	489	172	80	252	139	69	208
		後期	80	524	328	852	318	187	505	66	41	107	50	36	86
		推薦	40	40	32	72	40	32	72	17	23	40	17	23	40
		スポーツ推薦	4	4	4	8	4	4	8	2	2	4	2	2	4
		帰国	3	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
		社会人	3	4	1	5	3	1	4	1	1	2	0	1	1
経済学部計			330	930	538	1,468	698	381	1,079	258	147	405	208	131	339
シ ス テ ム 工 学 部	システム工学科	前期	170	371	64	435	336	55	391	159	28	187	146	25	171
		後期	100	518	92	610	252	39	291	118	14	132	81	11	92
		推薦	35	94	25	119	91	25	116	31	11	42	31	11	42
		計	305	983	181	1,164	679	119	798	308	53	361	258	47	305
システム工学部計			305	983	181	1,164	679	119	798	308	53	361	258	47	305
観 光 学 部	観光経営学科 地域再生学科	前期	50	58	106	164	57	102	159	18	35	53	16	33	49
		後期	35	93	178	271	46	86	132	10	26	36	7	21	28
		推薦	20	40	124	164	40	123	163	4	29	33	4	29	33
		社会人	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2
		A O	3	11	16	27	4	8	12	2	2	4	2	2	4
観光学部計			110	202	426	628	147	321	468	34	94	128	29	87	116
合計			910	2,545	1,498	4,043	1,841	1,093	2,934	708	372	1,080	593	335	928

(注)・前期：前期日程，後期：後期日程，推薦：推薦入試，帰国：帰国子女特別入試，社会人：社会人特別入試，AO：AO入試を示します。  
 ・センター試験の受験科目不足による無資格者は、欠席者数に含まれます。  
 ・教育学部前期は2つの課程について第2志望まで志願できる選抜にしており，志願者数及び受験者数は第1志望の人数です。  
 ・観光学部AOは3次選考までであり，1次は書類選考のみのため，受験者数は2次選考受験者の人数です。  
 ・システム工学部後期日程の合格者には、追加合格者5名を含みます。

平成26年度選抜状況

学部	学科・課程	日程等	募集人員	志願者			受験者			合格者			入学者		
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
教育	学校教育教員養成課程	前期	96	175	130	305	168	123	291	59	43	102	58	39	97
		後期	34	179	119	298	74	46	120	27	17	44	22	15	37
		推薦計	15	15	28	43	15	28	43	1	14	15	1	14	15
学部	総合教育課程	前期	22	20	20	40	16	17	33	14	12	26	11	11	22
		後期	10	37	40	77	16	17	33	6	7	13	3	6	9
		推薦計	8	14	12	26	13	12	25	5	3	8	5	3	8
教育学部計			185	440	349	789	302	243	545	112	96	208	100	88	188
経済	経済学 ビジネスマネジメント学科 市場環境学科	前期	200	402	192	594	385	180	565	160	84	244	135	68	203
		後期	80	596	359	955	367	214	581	54	53	107	41	43	84
		推薦	40	42	30	72	42	30	72	26	14	40	26	14	40
		スポーツ	4	13	2	15	13	2	15	3	1	4	3	1	4
		帰国	3	2	1	3	2	1	3	1	0	1	0	0	0
		社会人	3	4	1	5	4	1	5	2	1	3	1	1	2
経済学部計			330	1,059	585	1,644	813	428	1,241	246	153	399	206	127	333
シ	情報通信システム学科	前期	30	89	11	100	82	9	91	34	2	36	25	2	27
		後期	20	129	9	138	61	6	67	30	5	35	23	2	25
		推薦計	7	27	3	30	27	3	30	5	2	7	5	2	7
ス	光メカトロニクス学科	前期	30	109	3	112	100	2	102	33	1	34	31	1	32
		後期	20	88	4	92	36	3	39	23	2	25	16	1	17
		推薦計	7	26	1	27	26	1	27	7	1	8	7	1	8
テ	精密物質学科	前期	30	56	26	82	49	24	73	23	11	34	20	11	31
		後期	20	64	29	93	31	13	44	18	10	28	14	10	24
		推薦計	7	5	3	8	5	3	8	3	3	6	3	3	6
工	環境システム学科	前期	30	104	27	131	95	26	121	30	7	37	29	7	36
		後期	20	132	44	176	77	28	105	17	3	20	12	3	15
		推薦計	7	21	11	32	20	11	31	6	2	8	6	2	8
部	デザイン情報学科	前期	30	56	33	89	52	31	83	22	14	36	22	12	34
		後期	20	120	49	169	63	25	88	19	5	24	16	5	21
		推薦計	7	14	7	21	14	7	21	3	1	4	3	1	4
システム工学部計			285	1,040	260	1,300	738	192	930	273	69	342	232	63	295
観	観光経営学科 地域再生学科	前期	50	60	97	157	58	94	152	14	44	58	14	39	53
		後期	35	80	143	223	41	56	97	15	28	43	11	23	34
		推薦	20	56	115	171	56	115	171	6	19	25	6	19	25
		社会人	2	0	4	4	0	4	4	0	2	2	0	1	1
		A O	3	6	18	24	1	9	10	0	4	4	0	4	4
観光学部計			110	202	377	579	156	278	434	35	97	132	31	86	117
合計			910	2,741	1,571	4,312	2,009	1,141	3,150	666	415	1,081	569	364	933

(注)・前期：前期日程，後期：後期日程，推薦：推薦入試，帰国：帰国子女特別入試，社会人：社会人特別入試，AO：AO入試を示します。

- ・センター試験の受験科目不足による無資格者は、欠席者数に含みます。
- ・教育学部前期は2つの課程について第2志望まで志願できる選抜にしており，志願者数及び受験者数は第1志望の人数です。
- ・システム工学部前期は5学科について第3志望まで志願できる選抜にしており，志願者数及び受験者数は第1志望の人数です。
- ・観光学部AOは3次選考までであり，1次は書類選考のためのため，受験者数は2次選考受験者の人数です。

平成25年度選抜状況

学部	学科・課程	日程等	募集人員	志願者			受験者			合格者			入学者		
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
教育学部	学校教育教員養成課程	前期	96	240	132	372	229	125	354	64	37	101	60	35	95
		後期	34	172	128	300	69	45	114	22	20	42	20	16	36
		推薦	15	12	36	48	11	36	47	2	13	15	2	13	15
		計	145	424	296	720	309	206	515	88	70	158	82	64	146
学部	総合教育課程	前期	22	46	43	89	43	39	82	13	11	24	11	8	19
		後期	10	79	54	133	34	23	57	12	8	20	10	5	15
		推薦	8	16	16	32	16	16	32	4	4	8	4	4	8
		計	40	141	113	254	93	78	171	29	23	52	25	17	42
教育学部計			185	565	409	974	402	284	686	117	93	210	107	81	188
経済学部	経済学 ビジネスマネジメント学科 市場環境学科	前期	200	488	215	703	449	198	647	163	77	240	125	62	187
		後期	80	634	348	982	381	206	587	73	54	127	63	44	107
		推薦	40	59	39	98	59	39	98	22	19	41	22	19	41
		スポーツ推薦	4	5	1	6	5	1	6	3	1	4	3	1	4
		帰国社会人	3	2	0	2	2	0	2	2	0	2	1	0	1
			3	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0
経済学部計			330	1,188	604	1,792	896	445	1,341	263	151	414	214	126	340
システム工学部	情報通信システム学科	前期	30	115	8	123	102	7	109	32	3	35	31	3	34
		後期	20	129	14	143	81	6	87	24	2	26	18	2	20
		推薦	7	22	4	26	20	4	24	6	1	7	6	1	7
		計	57	266	26	292	203	17	220	62	6	68	55	6	61
システム工学部	光メカトロニクス学科	前期	30	92	4	96	85	4	89	33	1	34	30	1	31
		後期	20	97	8	105	47	6	53	24	3	27	23	3	26
		推薦	7	25	0	25	25	0	25	7	0	7	7	0	7
		計	57	214	12	226	157	10	167	64	4	68	60	4	64
システム工学部	精密物質学科	前期	30	88	28	116	85	26	111	31	9	40	26	7	33
		後期	20	79	28	107	39	15	54	21	10	31	17	10	27
		推薦	7	7	4	11	7	4	11	2	1	3	2	1	3
		計	57	174	60	234	131	45	176	54	20	74	45	18	63
システム工学部	環境システム学科	前期	30	76	12	88	68	10	78	28	5	33	23	5	28
		後期	20	108	42	150	53	23	76	19	12	31	16	10	26
		推薦	7	22	7	29	21	7	28	7	1	8	7	1	8
		計	57	206	61	267	142	40	182	54	18	72	46	16	62
システム工学部	デザイン情報学科	前期	30	60	35	95	58	26	84	24	11	35	23	10	33
		後期	20	103	60	163	54	28	82	20	5	25	15	5	20
		推薦	7	15	19	34	13	19	32	1	6	7	1	6	7
		計	57	178	114	292	125	73	198	45	22	67	39	21	60
システム工学部計			285	1,038	273	1,311	758	185	943	279	70	349	245	65	310
観光学部	観光経営学 地域再生学	前期	50	65	99	164	63	94	157	23	37	60	22	33	55
		後期	35	85	152	237	40	69	109	20	23	43	17	21	38
		推薦	20	40	106	146	40	106	146	3	21	24	3	21	24
		社会人	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		A0	3	1	13	14	0	10	10	0	4	4	0	4	4
観光学部計			110	191	370	561	143	279	422	46	85	131	42	79	121
合計			910	2,982	1,656	4,638	2,199	1,193	3,392	705	399	1,104	608	351	959

(注)・前期：前期日程，後期：後期日程，推薦：推薦入試，帰国：帰国子女特別入試，社会人：社会人特別入試，A0：A0入試を示します。

- ・センター試験の受験科目不足による無資格者は、欠席者数に含まれます。
- ・教育学部前期は2つの課程について第2志望まで志願できる選抜にしており，志願者数及び受験者数は第1志望の人数です。
- ・システム工学部前期は5学科について第3志望まで志願できる選抜にしており，志願者数及び受験者数は第1志望の人数です。
- ・観光学部A0は3次選考までであり，1次は書類選考のためのため，受験者数は2次選考受験者の人数です。



## 受 験 上 の 注 意

### ○共通の注意事項

1. 試験当日は、「和歌山大学受験票」および「平成 28 年度大学入試センター試験受験票」は、必ず持参してください。
2. あらかじめ、試験場の所在地と所要時間を確認しておいてください。  
なお、試験当日は北側進入路（システム工学部裏側）からは入構できません。正門（バス停）側進入路から入構してください。
3. 交通事情等を考慮し、余裕をもって試験場に到着するようにしてください。  
なお、遠方の受験者にとっては、大雪や風などによって飛行機、船、列車等が通常のとおり運行されない事態も起こり得ますので、あらかじめ気象状況や交通機関の運行状況を把握し、数日前から試験場近郊に滞在するなど適切な対応をお願いします。
4. 試験当日、J R 和歌山駅、南海和歌山市駅及び南海和歌山大学前駅付近や大学周辺で行われることのある合否電報受付等（有料）の勧誘に和歌山大学は一切関与していませんので、ご注意ください。  
※合格発表は、合格発表日に、和歌山大学構内掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者には合格通知書を発送します。そのほか、和歌山大学ホームページにも合格者の受験番号を掲示します。  
詳しくは、25ページを御覧ください。
5. 試験日の前日は試験場内に立ち入ることができません。
6. 試験場内には自動車・バイク等の乗り入れはできません。
7. 付き添い者は、試験場内には立ち入ることはできません。
8. 試験室等の位置は、試験当日に試験場入口に掲示します。
9. **試験開始時刻の 30 分前までに入室してください。監督者による説明が始まります。**
10. 試験室では、机の上の受験番号が受験票の受験番号と同一であることを確認し、着席してください。
11. 遅刻した場合は、試験開始時刻後 30 分以内に限り受験を認めます。
12. 試験開始から試験終了まで退室は認めません。
13. 体調不良やトイレ等、やむを得ない場合は、挙手し、監督者の指示に従ってください。
14. 携帯電話は、試験室に入る前に、電源を切ってください。あわせて、アラームの設定も解除してください。携帯電話を時計の代わりとして利用することを禁止します。
15. 試験（実技検査を除く）時間中、机上に置けるものは、本学受験票、平成 28 年度大学入試センター試験受験票、鉛筆、万年筆、ボールペン、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り、時計（計時機能のもの）です。
16. 飲み物等は、かばんに入れてください。
17. 所持品、コート類は、各自机の横の床上に整理して置いてください。机の中は利用できません。
18. 寒い場合は、コート類を着用しても差し支えありません。
19. 英文字や地図等がプリントされている上着等の着用は認めない場合があります。
20. 試験中、受験者間での物品の貸し借りを禁止します。
21. 受験する科目は、出願時に届けた科目以外で受験することはできません。
22. 問題冊子や解答用紙に、不備があれば、挙手して監督者に教えてください。
23. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。解答用紙は持ち帰れません。

### ○前期日程試験に関する注意事項

1. 教育学部の受験者は、受験しない科目の試験時間中に試験室を利用できません。
2. 経済学部の「簿記」の受験者は「簿記」の受験に際し、そろばんまたは電子卓上計算機（電池式で記録紙・信号音の出ないもの）の使用を認めます。

○不正行為に関する注意事項

1. 次のことをすると不正行為となります。不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を命じられ、それ以後の受験はできなくなります。また、受験した個別学力検査のすべての教科・科目の成績を無効とします。

- ア. 願書、受験票・写真票、解答用紙へ故意に虚偽の記入（受験票・写真票に本人以外の写真をはることや解答用紙に本人以外の名前・受験番号を記入するなど。）をすること。
- イ. カンニング（カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
- ウ. 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをすること。
- エ. 試験時間中に、問題冊子を試験室から持ち出すこと。
- オ. 解答用紙を試験室から持ち出すこと。
- カ. 「解答はじめ。」の指示の前に、問題冊子を開いたり解答を始めること。
- キ. 試験時間中に、使用を認められたもの以外の電子機器類・補助具を使用すること。
- ク. 「解答やめ。筆記用具を置いてください。」の指示に従わず、筆記用具や消しゴムを持っていたり、解答を続けること。

2. 上記1以外にも、次のことをすると不正行為となることがあります。指示等に従わず、不正行為と認定された場合の取り扱いは、上記1と同様です。

- ア. 試験時間中に、使用を認められたもの以外の電子機器類・補助具をかばん等にしまわず、身に付けていたり手に持っていること。
- イ. 試験時間中に携帯電話や時計等の音（着信・アラーム・振動音など）を長時間鳴らすなど、試験の進行に影響を与えること。
- ウ. 試験に関することについて、自身や他の受験者を利するような虚偽の申し出をすること。
- エ. 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- オ. 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- カ. その他、試験の公平性を損なうおそれのある行為をすること。